横浜みなとみらい保育園の自己評価

Ⅱ　子どもの発達援助

Ⅱ-1　子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場　①健康安全で心地よい生活　②子どもの主体的な生活　③人との関わりを育む環境

ab				評価の着眼点	評価		
					4年度	5年度	年度
Ⅱ　子どもの発達援助	1　子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	◇子どもが健康に生活する場となっている。	12	温度・湿度・採光・換気・音が常に適切に保たれている。	a	a	
			13	保育設備、遊具の安全が保たれている。	a	a	
			14	清掃が行われ、清潔が保たれている。	a	a	
			15	年齢に応じて、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成している。	a	a	
			16	子どもの日々の健康状態の情報を関係職員（調理員、福祉員等）に周知している。	a	a	
			☆	各種感染症対策を考えつつ、自動水栓等衛生環境にも努め、安心な保育生活が遅れるように配慮してきました。			
		◇子どもが自己選択・自己決定・自己活動できる環境を確保している。	17	子どもが遊具や用具、素材などを自分で取り出して遊べるようになっている。	b	b	
			18	子どもの年齢発達にふさわしい環境構成にしている。	a	a	
			19	子どもが好きな遊びを十分楽しめるよう柔軟性のある計画となっている。	a	a	
			20	保育者等は子どもの自発性を発揮できるような働きかけについて、共通理解のもと実践している。	a	a	
			☆	職員間で十分に話し合いを持ち、年齢にあった遊びの提供に努めていった。			
		◇子どもが人とのやり取りを育む環境を構成している。	21	日常の保育を通じて子どもの意見や意思を汲み取る大切さを職員が共通理解し、実践している。	a	a	
			22	異年齢交流の計画を作成し実施している。	a	a	
			23	様々な年齢や異文化を持つ人たちに親しみを持つよう、交流の場を設けている。	a	a	
			☆	コロナ禍の保育で例年通りにできなかったことも多かったが、このようにしたら交流の場が持てるか都度、状況を見ながら話し合い少しでも交流の場が持てるよう努めた			

Ⅱ-２　生活と発達の連続性　①子ども観・発達観の理解と共有　②発達過程に応じた保育　③個人差への配慮　④生活の連続性

		視点		評価の着眼点	評価		
					4年度	5年度	年度
Ⅱ　子どもの発達援助	２　生活と発達の連続性	◇保育所全体で、子ども観・発達観を共有する場を持ち、確認しながら取り組んでいる。	24	保育の内容に関する全体的な計画は全職員が参画し、発達過程の共通理解のもと作成している。	a	b	
			25	乳幼児期は身体的条件や生育環境により一人一人の心身の発達の個人差が大きいことを理解し職員全体で共有する場を持っている。	a	a	
			26	指導計画は定期的に評価、見直しを会議等で行い共有している。	a	a	
			☆	子どもの育ちを理解し、定期的に見直しをかけ、今の子どもたちにあった計画を立てるよう努め、全職員が共通理解できるよう話し合う時間を持てるよう心掛けた。			
		◇子どもの発達の順序性や連続性を踏まえ長期的な視野を持って見通し、計画・実践・記録を行っている。	27	長時間における保育の環境を整備し、保育の内容や方法を職員で共有している。	a	a	
			28	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携・情報共有が行われている。	a	a	
			29	経過記録を活用し、進級児の申し送りは担任間で行っている。	a	a	
			30	小学校への移行が円滑に行われるよう、要録の送付等を行っている。	a	a	
			☆	子どもたちが安心して過ごせる環境作りや、育ちを見通した長期的な計画を立て、育ちの連続性を大切にしていくために進級時の申し送りや幼保小の連携にも努め、保護者との情報交換も丁寧に行うように心がけた。			

Ⅱ-３　養護と教育の一体的展開　①主に乳児保育における　②主に１，２歳児の保育における　③主に、３，４，５歳児の保育における

		視点		評価の着眼点	評価		
					4年度	5年度	年度
Ⅱ　子どもの発達援助	３　養護と教育の一体的展開	◇保育における養護と教育の一体化がなされている。	31	「養護」は保育士などが行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している。	a	a	
			32	「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の５領域から構成されていることを理解し、実践している。	a	a	
			33	指導計画や記録には養護面の配慮を記載している。	a	a	
			☆	養護と教育の違いや内容を正しく理解し、計画や記録にも生かしていけるように職員間で共通理解できるように努めた。			
		◇配慮を必要とする子どもについて環境が整備され、保育の内容や方法を配慮している。	34	配慮を要する子どもや障害のある子どもについて、職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	a	a	
			35	統合保育の意味や有益性を理解し、子どもたちがともに育つことを職員間で理解し、共有している。	a	a	
			36	配慮を要する子どもや障害のある子どもの対応やケアについて、必要に応じ研修を行い、医療機関や専門機関と連携している。	a	a	
			37	保護者と必要に応じて情報の共有をしている。	a	a	
			☆	必要に応じて専門機関に来てもらい、配慮を要する子の対応や情報を得ながら、職員間で共通理解ができるよう話し合う時間を持つことで、どの職員も同じ対応をできるように努めている。			

Ⅱ-４　環境を通して行う保育　①保育の環境　②環境構成・再構成

		視点		評価の着眼点	評価		
					4年度	5年度	年度
Ⅱ　子どもの発達援助	４　環境を通して行う保育	◇環境を通して行う保育の重要性を職員間で共通理解している。	38	保育は人的環境、物的環境、社会的環境、空間的環境を通して行われることを職員が理解している。	a	a	
			39	保育姿勢の明確化を行い、職員間で共有している。	a	a	
			40	子どもが自分から思わず関わりたくなるような魅力ある環境構成をしている。	a	a	
			41	必要に応じてプライバシーが守られる空間を確保できるよう工夫をしている。	a	a	
			42	生活の場と遊びの場の区分ができ、生活に見通しが持てる空間となっている。	a	a	
			43	子どもが安全で保健的に過ごせる環境を作っている。	a	a	
			44	温かなくつろげる場と生き生きと活動できる場を作っている。	a	a	
			45	季節の移り変わりが感じられるような環境を構成している。	a	a	
			46	定期的に見直しを行い、子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成をしている。	a	a	
			☆	子どもの育ちや興味関心に合わせた環境構成に努め、子どもたちが季節を感じたり、のびのび過ごせるよう、また、感染対策にも配慮し、心身ともに健康に過ごせるよう努めた。			